

第2学年1組国語科学習指導案

- 1、
- 2、
- 3、単元名 想像を広げて読もう ～スイミー～
- 4、単元の目標 登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読む。

指導事項 「C 読むこと」

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

言語活動

本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。

5、単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読もうとしている。	・登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。 (ウ)	・感想を表す言葉を使っている。 イ (ウ)

6、児童の実態

(1) 読むことについて

2年生になり、物語文では4月に「ふきのとう」、説明文では5月に「たんぼぼのちえ」を学習した。

「ふきのとう」では、人物の行動を中心に想像を広げて読み、語のまとまりや響きに気をつけて音読することを目標にして学習を進めた。はじめのうちは、登場人物と自分とを離して考えている児童が多く、自分の思いや考えをなかなか発表することができなかった。しかし、「ふんばっているところです。」「大きなあくび。」など、せりふとともに人物の行動が書かれている点に注目していくと、児童たちは同じ動作をしながら想像を広げて読み進めることができた。特に、「はるかぜは、むねいっばいにいきをすい、ふうっといきをはきました。」の文では、「こんな感じかな?」「違うよ、もっとみんなに届くようにふうってやっているんだよ。」と動作化を通じて人物の行動を深く考えていた。そして、「だから、『ふうっと』のところは『みんなに届け!』って気持ちで音読したらいいんだよ。」と考えたことをさらに音読の工夫へつなげることができていた。読み取ったことをもとに、想像を広げていく楽しさを感じることができた。

「たんぼぼのちえ」では、時間の順序や理由を表す言葉に着目し、様子とそのわけを考えながら説明的な文章を読むことを目標にして学習を進めた。段落を入れ替えた全文を提示し、段落のはじめにある順序を表す言葉に着目して並べなおす学習をした。「『二、三日すると』という言葉は最初に来ないと思うから。」「『けれども』は途中の文に入るのかな。」など、段落のはじめの言葉に注目することはできていた。しかし、なぜこの段落がこの順番なのかという理由を説明できる児童はほんの一部しかおらず、また、段落のはじめの言葉が時や順序を表す言葉であることに気づく児童も少なかった。

話の流れや順序に関して、並び替えるなどして特に意識して読む経験がこれまであまりなかったことも要因の一つであると感じた。

(2) 交流について

安心して発言できるようになってきた一方、教師に向けて話をする児童が多いことが課題である。そのため、体の向きや声の大きさは教師を意識したものにとどまっている。伝える相手はクラス全体だということを意識できるようにし、みんなの方を向いて発言することや教室全体に聞こえるような声の大きさを話すことをくり返し指導してきた。また、相手の発言を聞いて反応を返す練習もしている。教師の話最後まで聞くことはできるものの反応が薄く、話が理解できているのか、きちんと届いているのかが分かりにくいことがある。うなづく、相づちを打つなどの反応のしかたの手本を示すことで、聞き方も身につけられるようにしてきた。クラスみんなに伝えようと話す姿や相手の話を理解しようと聞く姿が全体に見られるようにしたい。

7、テーマについて

(1) テーマのとらえ

<低学年ブロックテーマ> 自分の思いや考えを表現し、興味をもって聴ける子

低学年児童は、自分が興味のあることに対しては意欲的に聴くことができるが、興味のないものに対し

ては意欲的に聴くことができないことが多い。どんなことでも聴く姿勢をもち、興味をもって耳を傾けられる子を育てていきたいという願いから、低学年ブロックでは上記のようなテーマを設定した。まずは、興味をもって聴く姿勢が定着する児童を増やすことで、自分の思いや考えを安心して発表できる環境をつくり、そうすることによって表現したい、もっと話を広げていきたいという意欲へとつながると考える。具体的な子どもの姿としては、表現できる児童に対して、質問が出たり、うなずきながら聴いたり目を見ていたりしながら、やさしい心で思いやりをもって聴けることである。また、課題に対して自分はどう思うか、または、どう考えたかということを話したり、書いたりすることである。これらの学習を積み重ねることによって、自分の思いや考えを表現する姿や、相手の思いや考えに興味をもって聴けるような学び合える子どもたちになってほしいと願っている。

(2) テーマにせまる手立て

〈日常の活動の取り組み〉

①相手を意識した話し方・聞き方を身につける

話し方・聞き方に関しては、相手に伝わるような声の大きさ、スピードで話すことや相手の話を聞くときは体を向けて最後まで聞くことなど、「相手」を意識できるように教科を問わず指導している。交流タイムでは、相手を意識できるようにペアでの交流を取り入れ、自分の話す相手・聞く相手を明確にして練習してきた。同じようなことが全体交流でもできるように、話すとき・聞くときのめあてを掲示して指導している。

②反応のあいうえお

話は最後まで静かに聞く、という前提のもと交流している。しかし、話している児童にとっては、自分の意見がみんなに受け入れられているのか、このまま話し続けてもよいのか、とても気になる場所である。同意を表すような表情やつぶやきがあるだけで、児童は全体の場でも自信を保ちつつ話すことができると思う。そこで、話を聞く際の相づちやつぶやきの例を掲示し、発言に対して反応しながら聞けるように練習をしている。話し方や聞き方とあわせて指導し、自分の意見をしっかりと受け止めてもらえるから話したくなる、自分に向けて話しているから聞きたくなる、という学級の雰囲気をつくっていききたい。

③ネームプレートの活用

意見交流の際には、ネームプレートを使って板書をしている。名前とともに板書されることで、自分の意見が取り上げられていることが分かり、発言意欲の向上につながると考えている。また、自分の意見と似ている、または違う友達が分かることや、たとえ新しい意見が出せなくても「〇〇さんに似ている意見です。」と言って、ネームプレートで意思表示ができることなどのよさがあると考えている。

④読書 5000 ページ

5000 ページを目指して1年間継続して読書活動ができるように、読書カードに取り組んでいる。目標を5000 ページにしたのは、絵本などの短い物語だけではなく、低学年向けの少し長めの本にも挑戦してほしいという願いからである。校内で行った国語に関するアンケートで、「本を読むのは好きです

か？」という問いに対して、「とても好き・好き」が合わせて7割を超えているが、一部の児童を除いては週に1度の読書タイム以外は本を読んでおらず、本に親しむ機会が少ない状態である。読書カードを通して、たくさんの本に触れられるようにし、様々な物語の世界を味わいながら読書の楽しみを感じていけるようにしていきたい。

《本単元での手立て》

① スイミーパワーメーター

スイミーの行動や様子から気持ちを想像し、それをパワーメーターに表していく。1～5に数値化してメーターに表すことで、場面ごとのスイミーの気持ちの変容が視覚的に分かりやすくなると考えた。また、児童それぞれにパワーメーターをつけた根拠となる部分や数値にずれが生じることで、自分と友達との違いを感じることができる。そして、「なぜ〇〇さんのパワーメーターは3なのかな。」と友達と自分の考えの違いに興味をもち、「どうしてなのかな聞いてみたい。」という思いから、お互いの意見を発表し合い、交流するための手立てになると考えた。

②ワークシートの活用

本文とパワーメーターを載せたワークシートを使い、それぞれの場面でのスイミーの行動を考えていきたい。スイミーの行動や会話がパワーメーターに直接影響してくることから、パワーメーターを作成する上での根拠となる本文がすぐに見つけられるように1枚のワークシートにまとめたい。また、毎時間同じ形式で書き溜めていくことで、パワーメーターの変容やその場面ごとでの自分の思いをふりかえりやすくなると考えている。

8、単元について

(1) 単元設定の理由

生活科の学習で、「2年生として1年生にできることを考えよう」という課題で話し合いをした際、児童はとてもいきいきと話をしていた。自分たちが1年生のときに上級生からしてもらったことやそのときの気持ちなどをすぐに思い浮かべ、自分の言葉で伝えることができていた。

しかし、「ふきのとう」の学習で人物の様子や気持ちについて考えようとする、物語の人物と自分との間に距離を感じ、考えが進まない児童が多くいた。目に見えなかったり、あまり動く様子を見なかったりする自然物が登場人物だったこともあり、自分に引き寄せて想像することが難しいようだった。

本教材「スイミー」は、一匹だけ他とは色の違う魚「スイミー」が、仲間を失いながらも次第に元気を取り戻し、新しい仲間とともに大きな魚を追い出す物語である。恐ろしいまぐろとの遭遇や海の生き物と出会う楽しい場面など、場面の展開に変化があり、一読しただけでも話の筋が理解しやすくなっている。また、場面ごとにある挿絵は、スイミーの気持ちの変化と同じように暗い色彩やカラフルで明るい色彩などで描かれていて、児童は物語に入り込んでスイミーと一緒に様々な出来事や気持ちの変化を経験することができる。海の中で生きるスイミーと児童では環境が大きく異なるように感じるが、まぐろにおそわれて一人ぼっちになったり、仲間とともに力を合わせたり、スイミーが物語の中で経験したり感じたりすることは児童のこれまでの生活経験でも重なる部分があると思う。必要

に応じてスイミーの行動と自分とを比べて想像しながら、登場人物を身近に感じて距離を縮め、自分の言葉で思いや考えを表現できるようにしていきたい。

(2) 単元を通してつけたい力

読みの学習の実態としては、物語を読み、本文や挿絵から想像を広げていく楽しさを感じながら学習できている。音読の工夫について考えた「ふきのとう」では、動作化を使って登場人物の行動を読み取った。「こんな感じだよ。」と動作で自分の思いを伝えることはできていたので、本単元では自分の考えを言葉で表現できる力をつけたい。「～と書いてあるから…だと思う。」と物語に書いてあることから想像を広げ、自分の言葉に置き換えて考えを伝えられるようにすることで、さらに深く読むことができるようにしていきたい。全体で伝え合い、共有することでクラス全体で考えていくようにする。

交流の実態としては、意見を言うときは教師に向けた話し方になってしまうことや、友達の話に興味をもって聞いたり反応したりすることが課題であると感じている。そこで、本単元では、話すときはクラス全体に向けて話ができるように、聞くときは友達の見解を最後まで聞き、考えを受けて反応する姿が見られるようにしていきたい。掲示しためあてを使って、授業前に確認したり、普段の授業から意識させたりして、くり返し取り組んでいくことで身につけていきたい。

9、単元関連図

国語科での交流

1年生

「ゆうだち」＜自分と重ねて読もう＞
○文章の内容から自分の経験を思い起こし、自分の思いや考えを表現する。



「だってだっておばあさん」
＜好きのところを探してよもう＞
○物語の好きのところを探して読み、好きな言葉や文を書き抜く。



2年生

「ふきのとう」＜お話を音読しよう＞
○人物の行動を中心に想像を広げて読み、語のまとめや響きに気をつけて音読する。



「スイミー」
＜想像を広げて読もう＞
○人物の行動や会話、自分の経験をもとに想像を広げて読み、考えたことを発表し合う。

交流タイム

4月 「ペアトーク」
音読集の中の文を読んで考えた音読の工夫についてペアで話をする。

5月 「クラスのみんなどもっと仲良くなるために話し合おう」
・クラスのみんなどもっと仲良くなるためにはどんな遊びがいいのか考えて発表する。
・学級目標を立てるために、どんなクラスをみんなで作っていききたいのか考えて発表する。

5月 『ぼく』のパワーメーターを書いて発表し合おう
既習の物語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んで、「ぼく」の行動や会話からパワーメーターを書き、その理由を発表し合う。

5月 『おおかみ』のパワーメーターが一番高いところを発表し合おう
物語「はしの上のおおかみ」を読んで、「おおかみ」の行動や会話からパワーメーターを書き、一番高くなった場面とその理由を発表し合う。

10、指導計画

次	時	【】評価規準 と☆評価方法	○学習活動と・予想される児童の反応	・指導上の留意点
一	1	<p>【関】場面に合わせて、登場人物の行動や会話に注目しながら物語を読もうとしている。 ☆発言</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「スイミー」はどんなお話なのかを知ろう。</p> <p>○教師の範読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の中のお話なんだね。 ・大きいまぐろだな。怖そう。 ・くらげ、うなぎ、いせえびなど海の生き物が出てくるね。 ・「スイミー」ってお話だから、スイミーはずっと出ているね。 <p>○場面分けをしながら、あらすじをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、みんなで楽しく暮らしているんだね。 ・まぐろが来て、みんなを食べちゃったんだ。スイミーは逃げたんだね。 ・すばらしいものに出会って、スイミーは元気になっていったんだ。 ・赤い魚を見つけたんだ。遊びに誘っているけど、岩かげから出てこないね。 ・みんなで大きな魚になって、まぐろを追い出したんだね。 <p>○パワーメーターを書きながら学習していくことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のパワーメーターを作って、発表するんだね。 ・交流タイムでもやったことがあるから、できそうだな。 ・スイミーのパワーは場面ごとに変わりそうだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を確認し、スイミーが様々な生き物に出会う物語であることをおさえる。 ・学習の流れに合わせて挿絵を掲示し、物語のあらすじを挿絵からもつかめるようにする。 ・場面を分ける際に子どもから出た各場面を表す言葉を、今後の課題の言葉に使用していく。 ・スイミーバッチを用意し、毎時間バッチをつけることで物語の世界に入り込みやすくする。

<p>二</p>	<p>2</p>	<div data-bbox="395 215 1177 331" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>パワーメーターをつかって スイミーのことをもっと知ろう。</p> </div> <p>○教科書を音読する。</p> <p>○スイミーの人物像や兄弟たちと楽しく暮らしている様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たのしくくらししていた。」と書いてあるから、仲良く遊んだりしているんだね。 ・「一ぴきだけは、からす貝よりもまっくろ。」だって。色が違っているけど、スイミーは恥ずかしいと思っているんじゃないかな。 ・「およぐのは、だれよりもはやかった。」って書いてある。誰にも負けない速さなんだね。 <p>○場面ごとのパワーメーターと、パワーメーターを一番高くした場面の理由を書き、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番高くしたのは、兄弟と楽しく暮らしているスイミーです。なぜかというとはパワーが上がると思います。 ・僕は○○さんと違います。スイミーが活躍しないところだから、メーターは高くならないんじゃないかと思っています。 ・私が一番高くしたのは、海の生き物に出会う場面です。どうしてかというとおもしろいものを見たら元気が出るからです。 ・僕が一番高くしたのは、まぐろを追い出す場面です。なぜかというとは、大きな魚をおい出したスイミーが一番嬉しそうなところだと思うからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の切り替わりを意識できるように、前時で分けた場面を思い出しながら音読するよう声をかける。 ・「楽しく暮らす」とは、どういうことなのか具体的に想像できるように、普段の学校生活で児童の楽しいと感じることを取り上げ、全体で共有する。 ・場面を表す言葉と挿絵が載ったワークシートを用意し、物語全体でのパワーメーターが作れるようにする。 ・場面の挿絵を掲示し、ワークシートと対応できるようにする。 ・一番高くした場面やほかの場面でのメーターの違いを取り上げることで、児童同士のずれを感じさせ、「友達の考えを聞いてみたい。」という今後の学習への意欲につなげる。 ・それぞれのメーターの違いについては、次時以降に詳しく読んでいながら考えることを伝える。
----------	----------	--	---

【読】スイミーの行動や会話から、想像を広げて読んでいる。
☆発言・ワークシート

まぐろにおいかけられたスイミーのパワーメーターは
いくつだろう。

【読】まぐろに襲われた場面について、スイミーの行動や会話を中心に想像を広げながら読んでいます。
☆発言・ワークシート

○教科書 P.50～53 を音読する。

○まぐろの様子を読み取る。

- ・「おそろしいまぐろ」って、怖いまぐろってことだよ。
- ・まぐろは、みんなに怖がられている魚なんだね。
- ・「おなかをすかせて」だから、見つかったらすぐに食べられちゃう。
- ・「ミサイルみたいに」ってことは、ものすごい速さだね。
- ・新幹線よりはやいんじゃないかな。

○スイミーパワーメーターとその理由を考えてワークシートに書く。

- ・教科書に「こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。」って書いてあるから、1にしよう。
- ・にげたのはスイミーだけで、一人になって寂しいはずだから0にしようかな。

○スイミーパワーメーターとその理由を発表し合う。

- ・1だと思います。なぜかというとおそろしいまぐろが来たらこわいからです。
- ・ぼくも1だと思いました。でも、こわいからじゃなくて、魚の兄弟たちがみんな食べられてさびしいからです。
 - ・みんなと同じ1だけど、赤い魚たちが食べられてスイミーはくやしいから1なんだと思います。
- ・私は0にしました。まぐろに食べられて、兄弟たちと一緒に遊べなくな

・前時の場面と本時で学習する場面での周りやスイミーの様子の変化を意識して音読できるように声をかける。

・挿絵のスイミーとまぐろを比べて見ることで、スイミーとまぐろの大きさの違いを感じられるようにする。

・一文ずつ番号を振った教科書の文をワークシートに載せ、考えの手がかりを本文から見つけられるようにする。

・理由を文で書くことが難しい児童は、根拠となる文に線を引くだけでもよいと声をかける。

・自分の考えに自信がもてるよう、机間指導の際に考えを認める声かけをする。

・ワークシートに載っているスイミーパワーメーターと同じものを各メーター分用意し、児童の発言を板書する際に使いながらメーターごとの違いがとらえやすいようにする。

		<p>ってすごく悲しいからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は0にしました。みんな食べられて、もう兄弟に会えなくなったから、悲しくて何もできないと思うからです。 <p>○スイミーパワーメーターをもう一度書き、学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1のままにします。〇〇さんも私と似ていることを言っていたから、このままにしました。 ・〇〇さんが「一緒に遊べなくなって悲しい」と言っていたことが、よく分かりました。だから、僕は1から0に変えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか発言できないが全体に広げたい考えを書いている児童は、教師が取り上げて指名する。 ・友達の意見を聞いたうえで、もう一度書くよう声をかける。 ・はじめに作ったメーターと変わっても、同じでもよいことを伝える。
4	<p>【読】海の生き物に出会う場面について、スイミーの行動や会話を中心に想像を広げながら読んでいる。</p> <p>☆発言・ワークシート</p>	<div data-bbox="395 981 1225 1102" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 元気をとりもどしたスイミーのパワーメーターはいくつだろう。 </div> <p>○教科書 P.50～55 を音読する。</p> <p>○スイミーパワーメーターとその理由を考えてワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元気をとりもどした。」って書いてあるから、もとのスイミーに近い3のメーターにする。 ・まぐろに襲われたときより、うんと上がっているはずだから、5にしよう。 ・「だんだん」ということは、すぐに元気いっぱいになったわけではないのかもしれないな。メーターは4にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの場面と本時の場面でのスイミーの様子の変化を意識して音読できるように声をかける。 ・パワーメーターを書く前に、スイミーが出会った生き物を取り上げ、スイミーが感じた海の世界の面白さを理解できるようにする。 ・一文ずつ番号を振った教科書の文をワークシートに載せ、考えの手がかりを本文から見つけられるようにする。 ・理由を文で書くことが難しい児童は、根拠となる文に線を引くだけでもよいと声をかける。 ・自分の考えに自信がもてる

		<p>○スイミーパワーメーターとその理由を 発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4にしました。なぜかという、教科書に「だんだん元気をとりもどした。」って書いてあるから、元気になってきたと思うからです。 ・ 僕も4にしました。「おもしろいものを見るたびに」って書いてあるから、スイミーはおもしろいなという気持ちになっているんだと思うからです。 ・ 私は、5にしました。どうしてかという、大きなくらげやいせえびやうなぎを見たら、嬉しいし楽しいからです。 ・ ○○さんと似ている理由だけど、4にしました。元気になってきたけど、まだ元気いっぱいにはなっていないと思うからです。 <p>○スイミーパワーメーターをもう一度書き、学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5にしていたけど、4に変えました。○○さんが、「まだ元気いっぱいになっていない」と言っていたのが、「なるほど」と思ったからです。 ・ 4のままにしました。みんなの意見を聞いて、やっぱりスイミーは嬉しくて楽しくなっていると思ったからです。 	<p>よう、机間指導の際に考えを認める声かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに載っているスイミーパワーメーターと同じものを各メーター分用意し、児童の発言を板書する際に使いながらメーターごとの違いがとらえやすいようにする。 ・ なかなか発言できないが全体に広げたい考えを書いている児童は、教師が取り上げて指名する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を聞いたうえで、もう一度書くよう声をかける。 ・ はじめに作ったメーターと変わっても、同じでもよいことを伝える。
--	--	---	---

小さな魚のきょうだいたちを見つけて考えた
スイミーのパワーメーターはいくつだろう。

【読】赤い魚
たちに出会
い、考える場
面について、
スイミーの行
動や会話を中
心に想像を広
げながら読ん
でいる。
☆発言・ワー
クシート

○教科書 P.50～57 を音読する。

○スイミーパワーメーターとその理由を
ワークシートに書く。

- ・小さな魚たちを見つけたときは、き
っと嬉しかったはずだから、4にし
よう。
- ・「みんなであそぼう。」って誘って
いて、一人ぼっちじゃなくなるって思
ったから、前の場面よりも高い5に
しようかな。
- ・「なんとかかんがえなくちゃ。」って
言っているスイミーは困っているん
じゃないかな。困っているときは2
かな。

○スイミーパワーメーターとその理由を
発表し合う。

- ・3にしました。なぜかという、魚
のきょうだいたちを見つけれられて嬉
しかったからです。
- ・私は1にしました。どうしてかとい
うと、スイミーは「遊ぼうよ。」っ
て誘っているのに、魚たちは全然出
てこないから、少し困っていると思
ったからです。
- ・僕は困っているのは、ちょっと違
うと思います。だって、「なんとかか
んがえなくちゃ。」って言ってたく
さん考えているから、困っているよ
りは魚たちを絶対に外に出すんだっ
て気持ちなんだと思います。だか
ら、僕は4にしました。

- ・前時までの場面と本時の場
面でのスイミーの様子の変
化を意識して音読できるよ
うに声をかける。
- ・一文ずつ番号を振った教科
書の文をワークシートに載
せ、考えの手がかりを本文
から見つけられるようにす
る。
- ・理由を文で書くことが難し
い児童は、根拠となる文に
線を引くだけでもよいと声
をかける。
- ・自分の考えに自信がもてる
よう、机間指導の際に考えを
認める声かけをする。

- ・ワークシートに載っている
スイミーパワーメーターと
同じものを各メーター分用
意し、児童の発言を板書す
る際に使いながらメーターご
との違いがとらえやすいよ
うにする。
- ・なかなか発言できないが全
体に広げたい考えを書いて
いる児童は、教師が取り上げ
て指名する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・私も4にしました。スイミーはいっぱいいろいろ考えて、いいアイデアを出すぞって思って、パワーも上がったんだと思います。 <p>○スイミーパワーメーターをもう一度書き、学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの「魚たちを見つけられて嬉しい」という意見を聞いて、海の生き物と出会ったときよりも嬉しさがもっと上がったのかなと思って3から4に変えました。 ・4のままだけど、1にした〇〇さんの意見も聞いて、少し困っているけど頑張って考えているのかなと理由がちょっと変わりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いたうえで、もう一度書くよう声をかける。 ・はじめに作ったメーターと変わっても、同じでもよいことを伝える。
6 (本時)	<p>本時の目標</p> <p>大きな魚を追い出した場面について、スイミーのパワーメーターが一番高くなったときを行動や会話から考える。</p>	<p>大きな魚をおい出したスイミーのパワーメーターが一番高くなったのは、どのときだろう。</p> <p>○教科書を全文音読する。</p> <p>○スイミーパワーメーターが一番高くなったときを、スイミーの行動や会話から考えてワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スイミーはさげんだ。」のときかな。みんなに大きな声で言ったってことは、パワーも上がったはずだ。 ・「ぼくが、目になろう。」のときだと思ふ。自分だけみんなと違って黒か 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの場面と本時の場面でのスイミーの様子の変化を意識して音読できるように声をかける。 <p>本時の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーメーターが一番高くなった理由をスイミーの行動や会話から考えることができているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・一文ずつ番号を振った教科書の文をワークシートに載せ、考えの手がかりを本文

	<p>☆発言・ワークシート</p>	<p>ったけど、目の役で活躍できるから元気が出たと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きな魚をおい出した」とき。みんなで力を合わせて追い出せたら、嬉しいし、「やったー！」って思うから。 <p>○パワーメーターが一番高くなったと感じたスイミーの行動やせりふを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだ。みんないっしょにおよぐんだ。」のところだと思います。うんと考えてすごくいい考えが思いついたから、パワーメーターが一番高くなったと思います。 ・僕も同じところですよ。みんなで一緒に頑張ろうっていう気持ちで叫んでいるからです。 ・私も〇〇さんに似ていて、いいことを思いついたら元気になるし、「よし、やるぞ！」って気持ちになるからパワーメーターも上がると思います。 ・「ぼくが、目になろう。」のところですよ。兄弟たちの中でスイミーだけ色が違ってちょっと嫌だなんて思っていたと思うんだけど、他の赤い魚にはできない目の役ができて、スイミーはきっとはりきっているからです。 ・私も同じところですよ。みんなのリーダーになって頑張るぞって気持ちになっていると思うからです。 	<p>から見つけられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を文で書くことが難しい児童は、根拠となる文に線を引くだけでもよいと声をかける。 ・自分の考えに自信がもてるよう、机間指導の際に考えを認める声かけをする。 <p>・教科書の本文を拡大したものを掲示し、パワーメーターが高くなった部分が全体に共有されるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか発言できないが全体に広げたい考えを書いている児童は、教師が取り上げて指名する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>本時で抽出児童に期待する姿</p> <p>A 児：友達の見解に反応し、比べながら自分の考えを発表する。</p> <p>B 児：理由をつけて自分の考えを発表する。</p> <p>C 児：友達の発表を聞き、相づちやうなづきなどをして反応する。</p> </div>
--	-------------------	--	--

			<ul style="list-style-type: none"> ・大きな魚をおい出したところだと思います。どうしてかという、みんなまで追い出せて嬉しいからです。 ・〇〇さんに似ていて、頑張ったのもそうだけど、また赤い魚たちと楽しく暮らせて、一人ぼっちじゃなくなるからです。 <p>○今日の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は大きな魚を追い出したところだと思っていたけど、〇〇さんが言っていたところもいいなと思いました。 ・〇〇さんは僕と同じことを考えていたけど、僕よりもっとたくさん考えていてすごかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて納得したことや感じたことをワークシートに書き、本時の学習をふりかえることを伝える。
三	7	<p>【言】自分の気持ちを表す感想の言葉を使っている。 ☆ワークシート、発言</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> じぶんの一番すきなばめんをはっぴょうしあおう。 </div> <p>○教科書を全文音読する。</p> <p>○自分の一番好きな場面とその理由をワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、海の生き物に出会った場面にする。私もスイミーみたいにすばらしいものを見てみたいし、スイミーと一緒に元気になれた気がするから。 ・まぐろを追い出した場面にしようかな。みんなで大きな魚になって、力を合わせたところが好きだな。 <p>○好きな場面とその理由を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まぐろに襲われた場面です。私も一人ぼっちになったらとても悲しくて寂しいから、魚の兄弟たちがみんな食べられて一人ぼっちになったスイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読した後、一番好きな場面を選ぶことを伝え、どの場面にするか考えながら音読するように促す。 ・今までに書いてきたワークシートをふりかえり、スイミーの気持ちがよく分かったところやスイミーのことがすごいと思った場面を選ぶように声をかける。 ・場面ごとの挿絵を拡大したものを提示し、場面を選びやすくする。 ・発表の前に「反応のあいとお」を確認することで、お互いの意見に反応しながら聞けるようにする。

			<p>ミーの気持ちがよく分かったからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、岩かげで見つけた魚たちを出すために考えているスイミーがすごいと思いました。赤い魚たちにどうしてもすてきな海の世界を見せたくて、そのためにうんと考えてまぐろを追い出す作戦を思いついたスイミーがかっこよかったからです。 ・私は、大きな魚を追い出した場面です。みんなで力を合わせてまぐろを追い出せたときはスイミーや赤い魚たちと一緒に嬉しくなったからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との感じ方や考えの違いを楽しんで聞き合えるように、お互いの意見を認めながら聞くように声をかける
--	--	--	---	--